坂東札所巡拝記
(pdf 版)

平成 15 年 3 月 17 日
阿部敏雄(敏翁)

坂東 33 観音は、1994(平成 6)年～1995 年にほぼ巡拝を完了しています。
坂東３３観音は関東地方全般に散在しているので、横浜在住の私としては旅行やゴルフ等のついでにお参りをしたり、数寺ずつ纏めて一日、乃至一泊２日のドライブでこなしたりして現在は、2 寺を残すのみです。(第 28 番と 29 番)
この纏めて行う巡拝の記録は、パソコン通信 PC-VAN の SIG 「NTRAVEL 」に掲載しましたが、その記録を見失っていました。
先日、古い 5 インチのフロッピー・ディスクの中にそれらが保存されているのを見つけました。
この巡拝記は、それらの記録に画像を加えたり（それらに含まれていない場所は画像主体)、若干の補筆を加えたりして纏めたものです。

目次　(見たいところをクリックすればそこにジャンプします)

１．坂東札所とは 1
２．坂東３３観音ドライブ巡礼（１）　第 20～26 番 3
【第２１番 八溝（ﾔﾐｿﾞ）山日輪寺】 3
【第２０番 獨鈷（ﾄｯｺ）山 西明（ｻｲﾐｮｳ）寺】 5
【第２２番　妙福山 佐竹寺】 5
【第２３番 佐白（ｻｼﾛ）山 観世音寺　(佐白観音)】 6
【第２４番 雨引（ｱﾏﾋﾞｷ）山 楽法寺　(雨引観音)】 6
【第２５番 筑波山 大御堂】 6
【第２６番 南明山 清滝寺】 6
３．坂東３３観音ドライブ巡礼（２）　第９　～12 番 7
【第９番　都幾（ﾄｷ）山　慈光寺】 7
【第１０番　巌殿（ｲﾜﾄﾞﾉ）山　正法（ｼｮｳﾎﾞｳ）寺　(岩殿観音)】 8
【第１１番　岩殿山　安楽寺　(吉見観音)】　(下左図) 8
【第１２番　華林（ｶﾘﾝ）山　慈恩寺】 (右図) 8
４．坂東３３観音ドライブ巡礼（３）　第 15～19 番 9
【第１７番　出流（ｲｽﾞﾙ）山　満願寺　(出流観音)】 9
【第１９番　天開山　大谷（ｵｵﾔ）寺　(大谷観音)】 10
【第１８番　日光山　中禅寺　(立木観音堂)】 11
【第１６番　五徳山　水沢寺　(水沢観音)】 13
【第１５番　白岩山　長谷寺（ﾁｮｳｺｸｼﾞ　白岩観音)】 14
５．他の寺々　(画像中心) 14
【第１番　大蔵山　杉本寺　(杉本観音)】　(下図) 14
【第８番　妙法山　星谷寺(ｼｮｳｺｸｼﾞ)　(星の谷観音)】　(下左図) 15
【第 30 番　平野山　高蔵寺(ｺｳｼﾞｳｼﾞ)　(高倉観音)】 15
【第 31 番　大悲山　笠森寺　(笠森観音)】 16
【第 33 番　補陀洛山　那古寺　(那古観音)】 17
謝辞 17

１．坂東札所とは

坂東札所(＝坂東 33 観音)巡拝のガイドブックとしては、浅草寺貫首 清水谷孝尚さんが纏めた
『坂東 33 所観音巡礼』　朱鷺書房発行　が詳細な地図も付いていて便利です。
その全文(地図を除く)が、ホームページ化されています。

その歴史と、各寺については、このパソコンがインターネットに接続されているのであれば各々の赤枠をクリックすればご覧になる事が出来ます。

坂東 33 観音は、関東一円に広く跨っております。その地図を示します。
この中で、巡拝の記録をパソコン通信にアップしたのは、3 つのグループで、それを緑の線で括って示してあります。

① 第 20〜26 番　平成 6 年 11 月 11〜12 日
② 第 9　〜12 番　平成 6 年 12 月 1 日　日帰り
③ 第 15〜19 番　平成 7 年 7 月 24〜25 日

２．坂東３３観音ドライブ巡礼（１）　第 20～26 番

＊＊＊＊　東西南北「日本の旅」　＊＊＊＊

この左が、パソコン通信
PC-VAN の SIG 「NTRAVEL 」の中の東西南北「日本の旅」に掲載されたままのスタイルです。

(2)以降では省略します。

#5296/5300　東西南北「日本の旅」
★タイトル (WDJ17088)　94/12/ 4　12:33
坂東３３観音ドライブ巡礼（１）　　敏翁
★内容

Ⅰ．はじめに

今年４月に２日かけて秩父３４観音ドライブ巡礼、又５月２０日～６月４日に四国八十八ケ所ドライブ遍路（#4760,4767,4768,4769 にアップ）をすませた私の次のターゲットは、坂東３３観音ドライブ巡礼でした。

『日本３大巡礼ルートは、西国３３観音、坂東３３観音、四国８８ケ所です。４大巡礼ルートとなると、これらに秩父３４観音を加える事になります。

又、西国、坂東、秩父で１００観音巡礼と言うのも良く知られています。

そして、これらのルートを完成した記念の絵馬等が寺寺に残っているのです。』

私の今の中期目標の一つは、これらに併せてカソリック３大巡礼の一つであるスペインのサンチャゴ・デ・コンポスティラへのドライブ巡礼を完成する事です。

しかし坂東３３観音は関東地方全般に散在しているので、横浜在住の私としては旅行やゴルフ等のついでにお参りもしていますが、それだけではなかなか全体をカバーする事が難しく、数寺ずつ纏めて一日、乃至一泊２日のドライブ巡拝でこなして行く事を主体にしたいと考えています。

既に、２４寺を済ませて居りますが、今回は１１月中旬に一泊２日で第２０番から２６番迄を車で回った時の印象などを記します。

Ⅱ．案内書等

今回は、坂東札所霊場会編『坂東 33 所観音巡礼』朱鷺書房、ドライブ・マップ、それにその地域に関係有りそうな観光案内書２冊だけしか持って行きませんでした。（四国には２０冊程持って行きました）

Ⅲ．先ず八溝山へ

《《１１月１１日（金）》》

【第２１番 八溝（ﾔﾐｿﾞ）山日輪寺】

(右図)

３３所中いちばん辺鄙な所にあるこの寺は、茨城・福島・栃木にまたがる八溝山脈の主峰（標高１０２０ｍ）の頂上からちょっと下がったところにあり、かっては「八溝知らずの偽坂東」といわれ、遥拝で済ましてしまう者がいたほどの坂東札所第一の難所であったそうです。

「やみぞ」の語源とされている伝説に、日本武尊東征の折、ここまで来られ、「この先は闇ぞ」と言われたとある事からも昔の感じが想像出来ます。

今は、車で寺の門前まで行く事が出来ます。それでも冬はその道が凍結して厳しく、ご住職（毎日１時間かけて下から通っている）の話では、厳冬期（１月中旬から２月いっぱい？）はクローズするそうです。

今回の私の計画は、先ずいちばん遠くに行き、戻りながら巡拝し、時間の余裕との関係で、最終寺は未定にして置くというものでした。

横浜鶴見の自宅発（ａｍ８：１０ 後から考えると遅すぎた)、首都高速、湾岸葛西経由、常磐自動車道那珂ＩＣ－＞久慈川沿いに１１８号線を上って行き、大子（ﾀﾞｲｺﾞ）町下野宮から八溝川を上る。途中で軽い昼食を取ったせいもあるが、寺に着いたのが、１２：３０を過ぎていた。(自宅より２２１ｋｍ)　山道は、険しい事は確かであるが、私にとっては、四国で腕を上げた（？）せいか、それほどでもなかった。
（と言っても実は若葉マークが取れたばかり、慢心は禁物）
しかし凍結したら恐ろしい事は確かだと思う。
冬アクセスが困難な寺は、ここと日光中禅寺湖畔の 第１８番　中禅寺だそうです。(そういう訳でここは安全第一で来春にお参りする予定。　*本巡拝記の(3)にあります*)
山頂にも上ってみたが、霧がかかり、眺望は利かなかった。

Ⅳ．益子へ

１１８号線戻りの途中で**袋田の滝(右図)**に寄る。
予想外に時間がかかったので、益子で一泊する事にした。案内書により、益子町にある第２０番西明寺宿坊に電話したが、今はもうやっていないとの事。他の案内書（それによると最も近い民宿は益子にある）により、案内書のトップに出ていた民宿に電話したが、一人は扱わないと言う。しかしここに頼みこんんで一人でも可能な所を紹介してもらう。
民宿「山路」(ここは当日客は２組３人。親切で良い民宿だった）である。
暗くなってくるし、道に迷うし、さんざんだったが、ｐｍ５：３０頃民宿に到着した。
本日の走行距離は３３９ｋｍ。

《《１１月１２日（土)》》
ａｍ７：３０民宿発（おばさんが握り飯を包んでくれる)。
おばさんは、足が不自由な人だったが、町で気のせいか足の不自由な人を何人か見かけた。益子の町はこれらの人たちにやさしい温かい町なのだろうか？

【第２０番 獨鈷（ﾄｯｺ）山 西明（ｻｲﾐｮｳ）寺】

霧が深く１０m先が見えない。寺は民宿から車徐行で１０分程度のところにある。この参拝の後だが、最近のＮＨＫＴＶ放送で、ここの住職（先代の後を継ぐまで癌研（？）の医師だったそうだ）が仏教に基づいたポスピス医療に注力している姿を見て感動した。

この寺は大きく、**三重の塔(上左図)**の姿も美しく、境内の雰囲気も実にさわやかだった。残念なのは朝が早過ぎ**閻魔堂(上右図の右端の堂)**内が暗すぎ、有名な「笑い閻魔」を見る事が出来なかった事であった（上述のＴＶにはちょっと映っていた）

ａｍ８：３０から益子の「共販センター」が開くとの事で覗いてみる。
行きずりの人に有名な大狸の焼き物の前で記念写真を撮ってもらう。
(右図)

Ｖ．スピードアップ

今日中に２６番までは済ませたいと思い、(そうしないと次の計画の効率が悪くなる）ここからスピードを上げる事にした。
昨日の道を逆に走り、太田市にある
【第２２番　妙福山 佐竹寺】
茅葺きの本堂（重文）がある境内は落ち着いた雰囲気に満ちていた。
(下左図)
次にここから近い 日立南大田ＩＣに入り、水戸ＩＣまで高速を利用。
途中のＰＡで、朝民宿でもらった握り飯を昼食とした。

笠間市にある

【第２３番 佐白（ｻｼﾛ）山 観世音寺 （佐白観音）】

は小さな寺でる。(前頁右図)

手短に済まそうと思っていたが、住職の考えは全く違い、本堂に上がらないと納経出来ないシステム。お茶、お菓子が出てきて、お経もあげて頂きいろいろと法話（？）もあつた。これでは３００円（納経印の協定価格）で済ますわけにはいかず、１０００円の奉謝で失礼する。

【第２４番 雨引（ｱﾏﾋﾞｷ）山 楽法寺 （雨引観音）】

筑波連峰の北端、雨引山の中腹にある大きな寺である。ここは安産祈願の観音として有名（光明皇后のお産の安産祈願に由来）なそうで、今日は秋晴れの休日でもあり、七五三の為のお参りの着飾った子供連れで大いににぎわっていた。みんな安産祈願の結果授かった子供達だろうか？(下左図)

ここは、これらの商売が忙しいためか、納経所は隅の方の目立たない所にある。

【第２５番 筑波山 大御堂】

雨引観音出発ｐｍ１：５０。

車の流れは、筑波参道入り口までは順調だったが、そこを入ったとたん全く動かなくなってしまった。後で解った事だが、山頂の大駐車場が満杯で、そこを出た車の数だけ車が進むという事になっていた為であった。

確かに今日の天気は素晴らしく、筑波山へ紅葉狩に出かけた人たちでこの様な事になったのだろう。

やっと、ｐｍ３：５０駐車場に入る。大御堂に急ぐ。ここは小さな仮住まいの様な所。明治初年の排佛棄釈のダメージから未だ立ち直れないのだろう。(上右図)

ここも堂に上がらないと納経出来ない。時間も無いし、あまり時間がかかると困るなと思っていると、堂を護っている女性は「上がってお参りして下さい」と言っただけだった。

筑波山スカイラインを下る。ここは空いていたが、どうも暴走族の活躍場らしく、ヘャピンカーブの対行車線を～１００ｋｍ／ｈ（？　制限時速は確か３０ｋｍ／ｈ、私はせいぜい４５ｋｍ／ｈ程度）で飛ばしてくるのには肝を冷やした。

この下り道路からは

【第２６番 南明山 清滝寺】

への入り口は分かりにくい。しばらく行き過ぎてから、道路で柿を売っているおばさんに教えてもらい寺に着いた時は薄暗くなっていた。

どうやら納経の時間リミツト（冬季はｐｍ４：３０）に間に合い、今日の目標は達成したのでほっとした。(右図)

土浦北ＩＣから入り、帰路に着く。しかし土曜の夕方で高速は大渋滞。
自宅に着いたのはｐｍ８時過ぎになってしまった。

本日の走行距離は２９３ｋｍ。
総走行距離は　２日間で　６３２ｋｍ　であった。

３．坂東３３観音ドライブ巡礼（２）　第9　～12番

Ⅰ．はじめに

今回は、先日一日掛けて第９番から第１２番をドライブ巡礼した時の印象記です。
基本計画は、関越自動車道、松山ＩＣから第９番（今回予定の中で一番西にある）を参拝、１０，１１番と東に移りながら最後に第１２番を参拝後、東北自動車道、岩槻ＩＣより帰路に着くと言うものです。

Ⅱ．先ず第９番へ

１２月１日（木）横浜鶴見の自宅発（ａｍ６：３５）、国道一号線（２国）矢口より環８に入り、谷原より関越自動車に入る。（８：００）
途中、三芳ＰＡで小休止、休憩所でたまたま映っていた毎日見ているＮＨＫＴＶ「春よ、来い」を見る。
東松山ＩＣを出たのが、８：５２。２５４号線－＞７２号線経由

【第９番　都幾（ﾄｷ）山　慈光寺】

寺の近くにある「板碑」は有名である。『弘長二年（一二六二）のものをはじめ九基を数える「板碑」の伝存は、中世におけるこの寺の繁栄がいかに大きかったかを示している。鎌倉時代文化の一異彩であるこの寺の大板碑群、六百年の風雪に堪えてきた姿は気高くさえある。』(**『坂東33所観音巡礼』**　右図)
埼玉県比企郡都幾川村に９：３０着。
途中、案内板も行き届いていて非常に分かりやすかった。
ここは、山道を相当上った所にあるが大きな寺で有り、境内も実に広い。
本堂に上がってお参りをする。住職から観音の手の向き等についてお話を伺う。

（ここの本尊は、十一面千手千眼観世音菩薩であり、後ろに生え（？）ている手の一本が掌を後ろに向けているのは何故か？他の寺の千手観音は？等など。理由は子供を背負う事を象徴しているのだそうである。）
ここは、納経した人はノートに記名する事になっている。ここ１週間は毎日１０～２０人といったところ。本日のトップが私だった。１０００円奉謝する。
本堂から丘の階段をだいぶ上った所にある釈迦堂（？）は大修理中であった。
丘の上からの本堂を含めた眺めは、紅葉も真っ盛りで美しい。
丘の麓にある宝物殿、および**般若心経堂**（正確な名は忘れた　右図）を見る。後者は、新しいお堂で、伝弘法大師書の般若心経（写し）や王義之集字般若心経（王義之の書いた種々の書から字を集めて心経とした

もの）等が展示されていた。何れもだいぶ大きなものである。書にも関心のある私に取って印象深いものだった。

Ⅲ．１０、１１番

７２号線を戻り、途中より７１号線にはいり、又途中より２４３号線に入る。何の表示も無く、不安にかられながら車を進めていくと突然

【第１０番　巌殿（ｲﾜﾄﾞﾉ）山　正法（ｼｮｳﾎﾞｳ）寺　（岩殿観音）】

東松山市の駐車場（付近は県立（？）公園に成っていてそれと兼用）が現れる。

駐車場に番小屋があり、年輩の番人らしい人がいる。有料かと尋ねてみたが、無料だった。そこから地下道の様なところを通って寺の裏に続いている。

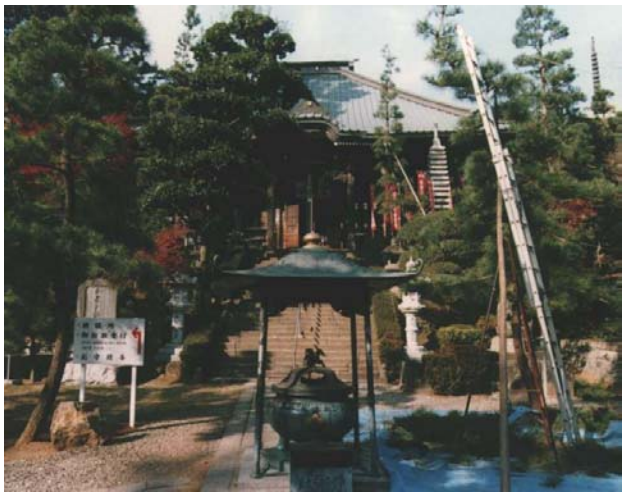
ここの境内は木影が深く、落ち着いた所である。

２４３号線を更に東に走り、国道４０７号線に入り北上、東松山市街から吉見百穴の北側を通って

【第１１番　岩殿山　安楽寺　（吉見観音）】　（下左図）

比企郡吉見町に至る。（松山市街で一旦道に迷い市立図書館の駐車場に入り、道を聞く）

ここは、南向きの明るい境内で県文化財の**三重の塔**(下右図)と、本堂外陣一杯に掲げられた「奉納額」が見所。ここで１２：３０になり、門前の茶店で昼飯と名物「厄除け団子」を頼む。どんぶり定食はかき揚げどんぶり＋うどんで、量はたっぷり（値段は６００円)、ようやく団子を食べ終えた。



Ⅳ．ややロングドライブ

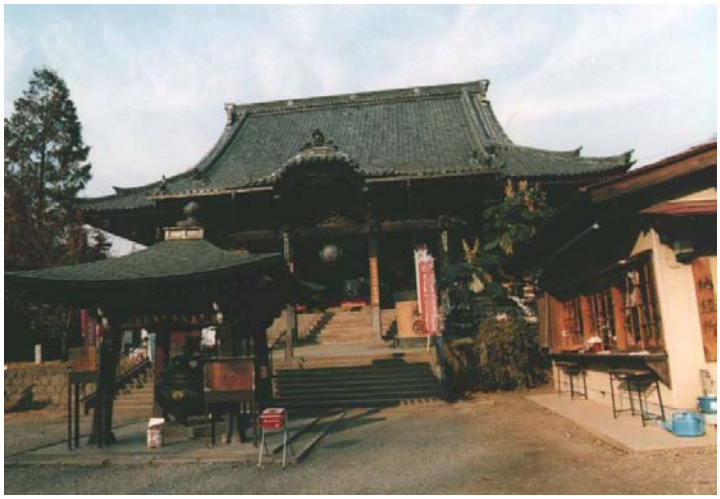
ここから次の

【第１２番　華林（ｶﾘﾝ）山　慈恩寺】（右図）

埼玉県岩槻市　までは、かなり遠い。

２７号線から鴻巣で国道１７号線に入り、ＪＲ高崎線に沿って南下、上尾駅の南約３ｋｍの所で左折１６号線（大宮東バイパス）に入る。（ここの入り方を間違え、新大宮バイパスに入ってしまい､数キロ先の信号をＵターンで戻る）

岩槻ＩＣ入り口を過ぎ、東武野田線・豊春駅入り口を左折、約２ｋｍで寺に着く。



ｐｍ２：４０
　納経所で住職の話を聞く。このご住職も（やっている人は多い？）４０人ほどの団体で、バスを使って６回に分けて３３観音参りをやっていて、６回は１年では無理との事であった。これから冬場は温かい千葉の方を回る積もりとか。

　ｐｍ３：００出発。岩槻ＩＣより東北自動車道に入る。前回の失敗から今度は箱崎－浜崎橋－２号目黒線「戸越」で２国へ下りる。
　向島・箱崎間は混んでいたが、自宅４：５０着。順調と言っていいと思う。

　本日の走行距離は２４１ｋｍであった。

４．坂東３３観音ドライブ巡礼（３）　　第 15～19 番

Ⅰ．はじめに

　　本題の（１）は #5296　94/12/ 4、（２）は #5298　94/12/ 5 のアップですから、だいぶご無沙汰致しました。(*いずれも昨年*)
　この間、今年５月にスペインに行き、レンタカーで ３３００ｋｍのドライブ旅行をしましたので、やっとロング・ドライブする気力が戻り、今回の１泊２日のドライブになったわけです。
　尚、私のスペイン旅行については、ワールド「世界の旅」の 60　95/ 6/28 からスペイン　ドライブ旅行記（１）～（１３）としてアップされています。

　今回は、北関東で残っている第１５番 白岩観音、１６番 水沢観音（伊香保）１７番 出流（ｲｽﾞﾙ）観音、１８ 番 立木観音（中禅寺湖畔）、１９番 大谷観音を １７－＞１９－＞１８－＞１６－＞１５の順に回る事にしました。
　基本計画は、自宅－＞首都高 浜川崎ＩＣ－＞東北自動車道 栃木ＩＣ－＞１７番－＞栃木ＩＣ－＞宇都宮ＩＣ－＞１９番－＞日光宇都宮道路－＞第２いろは坂－＞１８番　（泊）－＞金精道路－＞関越自動車道 沼田ＩＣ－＞渋川・伊香保ＩＣ－＞１６番－＞１５番－＞高崎ＩＣ－＞練馬ＩＣ－＞環８－＞自宅　というものです。

　雨中の山道ドライブを出来るだけ避けるため、梅雨明けを待っていたのです
が、７月２４日頃から明けそうな中期天気予報だったので、２３日に中禅寺湖畔の民宿（２４日夜一泊）を予約、２４日朝出発しました。

Ⅱ．先ず１７番へ

　７月２４日（月）横浜鶴見の自宅を午前７時５０分出発。
　浜川崎ＩＣ　で首都高に乗る。葛西ＩＣ回りで東北自動車道に入り、佐野ＳＡでひと休み、栃木ＩＣで降りる。しばらく広い道を走るが、プレステージＧＣ（数回来た事がある）のそばから細い道に入ると様相が一変する。
　ダンプカーが列をなして走ってくる。道も段々埃っぽくなってくる。
ダンプとの行き違いには緊張の連続だった。その内、鍋山町の石灰石鉱山の工場内を走っている様な感じになる。これがダンプだらけと埃っぽい道の原因である。
　ダンプがいなくなると、走っているのは私の車だけになり、更に約２ｋｍも山道を走ると、
　【第１７番　出流（ｲｽﾞﾙ）山　満願寺　（出流観音）】
　の山門に達する。（栃木ＩＣから約１５ｋｍ）
　山門を入ったところに駐車する。少し進むと一見場違いの感じさえするような大きくて近代的な信徒会館がある。（その一部が納経所にもなっている）
　緩い石段をさらに登っていくと本堂に到る。本尊は、千手観世音菩薩である。
堂の隅にある大きな仏像（暗くてはっきり見えない）の前で、若い僧が二人熱心に経を唱えていた。
　３００円の入山料を払って「奥の院」に向かう。

解説書によると、この寺の開創は、この「奥の院」と呼ばれる霊窟（鍾乳洞）にある鍾乳石のあらわす容態を十一面観音と崇めた事によるとの事である。

きつい岩道を１５分ほど登ると「大悲の滝」に到り、そばに休憩小屋がある。
滝壷で、顔を洗い涼をとりひと休み。見上げるような位置にに舞台作りの礼堂がある。息を切らしながら急な石段を登ると礼堂に達する。(上左図)
　その奥に小さな鍾乳洞と十一面観世音のうしろ姿とされる鍾乳石が祭ってある。しばらく見ていたが、想像力が乏しいせいかその様には見えなかった。(上右図)

　鍾乳石を仏に見立てると言うような事は、珍しくない。例えば、秩父３４観音の第２８番橋立寺の奥の院にもある。しかし直接それが機縁となって寺の開創に到るというのは例が少ないのではなかろうか。

　『坂東霊場記(*)』には「殊勝の体相凡舌にのべがたし、巡礼の輩これを拝見して、感涙袖を絞らざる者なし」と記してあるという。
　鍾乳石の成長は百年にわずか数ミリというから、様子は昔と殆ど変わっていない筈であり、昔の人の想像力と宗教心の深さに今更ながら感じいってしまう。

　門前の店で昼食に名物の蕎麦（かけ）をとる。１１時半出発。

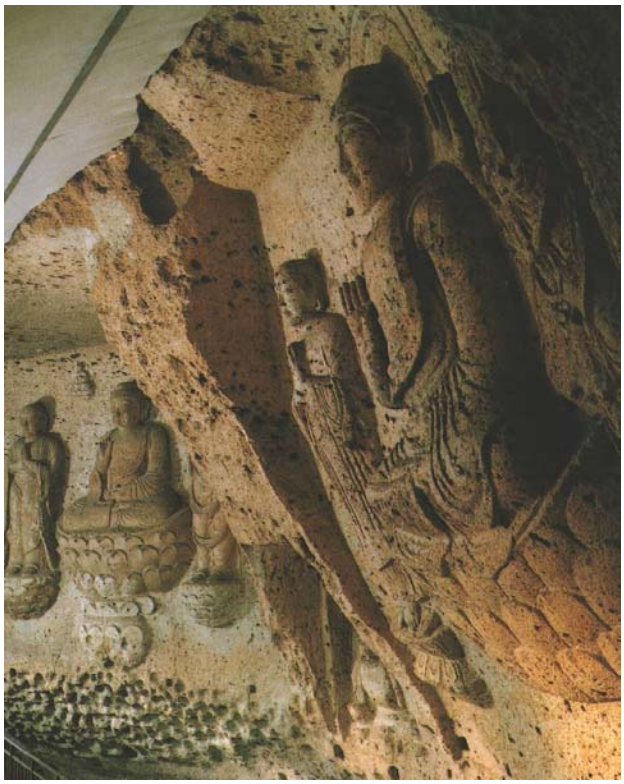
*：正確には『三十三所坂東観音霊場記』　真言宗の僧 亮盛 著。
　　明和８年（１７７１）出版。

Ⅲ．１９，１８番

　ダンプに気をつけながら来た道を戻り、栃木ＩＣに入り、宇都宮ＩＣまで走る。そこから国道２９３号を８ｋｍばかり戻ると

【第１９番　天開山　大谷（材ヤ）寺　（大谷観音）】

に到る。



大谷といえば、天平年間にすでに使用例がみられるという歴史の古い大谷石の産地であり、大谷石の山そのものへの自然崇拝に仏教が結びついてこの寺が創立されていったのであろう。

拝観料３００円を払って、寺に入る。
本堂の尊像は、千手観世音菩薩で、石心塑像（削った石の上に塑土で細部を飾ったもの）である。平安時代初期のもので、特別史跡、重要文化材。(上左図)

火災に会って傷みも相当あるが、それも趣に成っていて、観音の慈悲の心が良く現れている。我国の石仏のうちで再優秀作と言われているそうである。
本堂に続いている脇堂の釈迦・薬師・阿弥陀のそれぞれの三尊像はいずれも平安時代の磨崖佛（一部は表面を塑土で飾ってある）で、すべて特別史跡、重要文化材。(上右図)

寺を出てすぐの処にある「平和観音」（高さ２７メートル、昭和３１年開眼供養）に詣で、午後１時出発。

国道２９３号を戻り、日光宇都宮道路（有料）に入り、終点から第二いろは坂に入る。明智平でひと休み。霧がかかっていたので、ロープウェイに乗るのは止め（登っても華厳の滝が良く見えない)、中禅寺に直行する。

【第１８番　日光山　中禅寺　（立木観音堂)】

門前の県立無料駐車場に駐車。

拝観料３００円を払って、寺に入る。
本堂の尊像は、千手観世音菩薩（重文）である。延歴三年（７８４）の春、勝道（ｼｮｳﾄﾞｳ）上人（第１７番 出流観音の開基でもある）が、小舟で中禅寺湖を周遊された折、湖上に千手観音の尊容を感見され、桂の巨木を選んで立木のまま刻まれたものという。千手の部分は違う木らしい。
大きなもので（高さ約６メートル？)、その素朴さが魅力である。

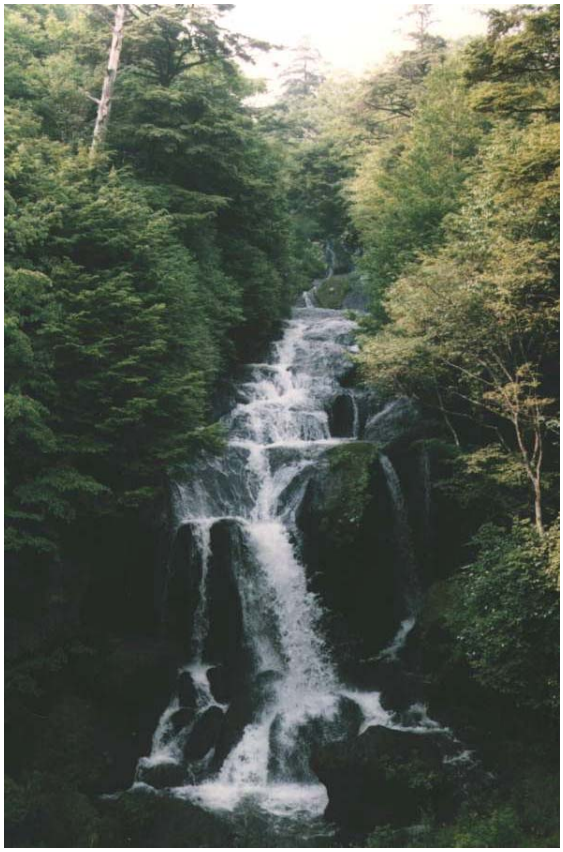
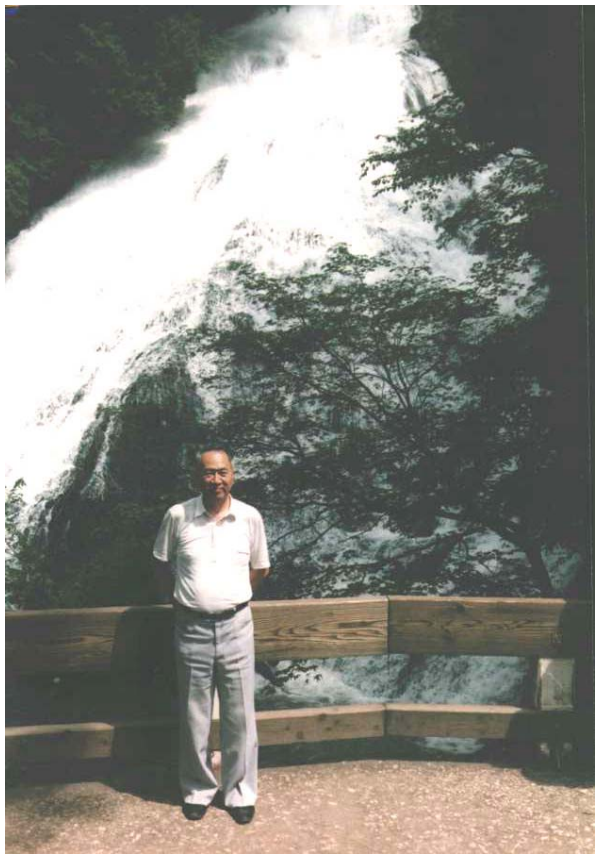
私の年代の者には懐かしい映画「愛染（ｱｲｾﾞﾝ）かつら」（昔、何回も見た。田中絹代、上原謙　・・・　懐かしいなあ！！）で有名な**愛染堂(次頁左図)**が境内にあるので、ちょっとお参りをする。(次頁右図は堂内の愛染明王)
午後３時頃。

門前の民宿「山路」（今晩泊まるところ）に駐車場を尋ねる。今駐車しているところしかないらしい。

時間に余裕があるので、少しドライブすることにした。
１）中禅寺湖スカイライン（有料）を通り、展望台へ行く。山頂は深い霧で何も見えず。
２）**竜頭（ﾘｭｳｽﾞﾉ）滝**(下左図)。茶店で団子を食べながら観瀑。
３）戦場ケ原。三本松の駐車場に車を留め少しぶらつく。
　　二十数年前の記憶からは、信じられないほど開けてしまっている。

本日の走行距離は３３２ｋｍであった。

民宿「山路」は、客は私一人。貸し切りみたいなものである。
私の部屋の窓、風呂場の窓、食堂の窓、いずれからも中禅寺湖の展望が開け実に良い気分であった。

Ⅳ．１６，１５番

７月２５日（火）

朝起きて朝風呂に入る。ＴＶで全国各地の猛暑ぶりを報道していたが、さすがにここは涼しい。民宿のＴＶにはＢＳは無い。ＣＨ１で「春よ、来い」を見てから９時出発。

先ず、光徳の駐車場に車を留め、光徳牧場、光徳沼のあたりを散歩。

次に**「湯の滝」**(前頁右図)を観瀑。

ここから金精道路に入る。

「白根魚苑」に立ち寄る。１１時を過ぎていたので、ビール中瓶＋鱒フライ定食で昼食とする。

少し酔いが回った感じがしたので、車の中でＣＤ（有線カラオケ・ヒット全局集・・・伍代夏子、藤あや子、渥美二郎　等）を聞きながら３０分ほど休む。

関越自動車道・沼田ＩＣに入り、渋川・伊香保ＩＣで降りる。

伊香保方面にどんどん走り、伊香保ＣＣを過ぎた交差点を左折すると３ｋｍほどで

【第１６番　五徳山　水沢寺　（水沢観音）】

に到る。

ここの駐車場は広い。参拝客も非常に多い。伊香保温泉から回ってきた客、周辺に沢山ある「水沢うどん」の店から回ってきた客などが大半なのだろう。

本尊は、千手観世音菩薩。本堂と**六角輪堂**(右図)にお参りする。

午後２時１０分出発。

船尾滝(下左図)に寄ってみる。水沢観音から遊歩道を通って行くと４５分もかかる処だが、車で出来るだけ近くに接近する。途中車のすれ違い困難な部分もある。そこから５分ほど岩道を登ると滝の下まで行ける。

落差は非常に大きいが、水量は少ない。客も１０人ほどだった。

駐車出来る最終場所の近くで、ラムネを売っている夫婦者の話しによると、ここは、休日は車が混んで動きが取れなくなるそうである。

ここから、１５番へは少し道が分かりにくい。途中のガソリンスタンドで２回ほど道を聞いて

【第１５番　白岩山　長谷寺（ﾁｮｳｺｸｼﾞ　　白岩観音）】

にたどり着いた。(前頁右図)
本尊は、十一面観世音菩薩。

ここは、参拝者は私一人だけであった。納経所にもおばさんが一人いるだけだった。１６番の賑わいが嘘のようである。

午後４時出発。高崎ＩＣより練馬終点まで高速、後は環八から二国を通って自宅着　午後７時半。
本日の走行距離は２７８ｋｍ。
今回の総走行距離は、二日間で６１０ｋｍであった。

今回の中での見所は、１７番の奥の院、１９番だろう。

５．他の寺々　(画像中心)

【第１番　大蔵山　杉本寺　(杉本観音)】　（下図）

高速の朝比奈 IC で降りて、鎌倉へ下った所にある。
すぐ傍にある**「報国寺」**は別名「竹寺」と言い、その庭園は美しい。(次頁図)

【第 8 番　妙法山　星谷寺(ｼｮｳｺｸｼﾞ)　(星の谷観音)】　（下左図）

小田急線座間駅で下車、徒歩十分はどで星谷寺に着く。

この寺には「七不思議」がある。

『鐘と星の井・楠の化石・観音草・不断開花の桜・咲き分けの椿・根下り紅葉とを合わせて「七不思議」　というが、乳房のように垂れた老木が今、本堂の中にあり、これに触れると乳の出が良くなるという「根下り紅葉」、これなど悲母観音の誓いに通ずるもので、庶民の願いの純粋さを物語っている。また**「星の井」(下右図)**は夏になると井戸の内側に草が茂って、それを通す光が星のように水面に光るのだなどと分析せずに、観音さまの霊異と受け取りたい。不信の者には見えぬとか。』(**『坂東 33 所観音巡礼』**

【第 30 番　平野山　高蔵寺(ｺｳｿﾞｳｼﾞ)　(高倉観音)】

『この高蔵寺の本堂は「構造は壮大にして古朴なる稀に見るべきものなり」と評されている如く、高床式の特異な建物である。大永六年（一五二六）藤原時重の建立。重層入母屋造り、床の高さ一・八メートル、床をささえる柱の数八十八本の堂々たるものである。享保年間（一七一六～三六）に大改修をしたが、中世建築の面影を十分に残している。ことに斧で削ったままのような、ひと抱えもある十六角の柱に木匠たちの非凡な腕がうかがえる。「郡

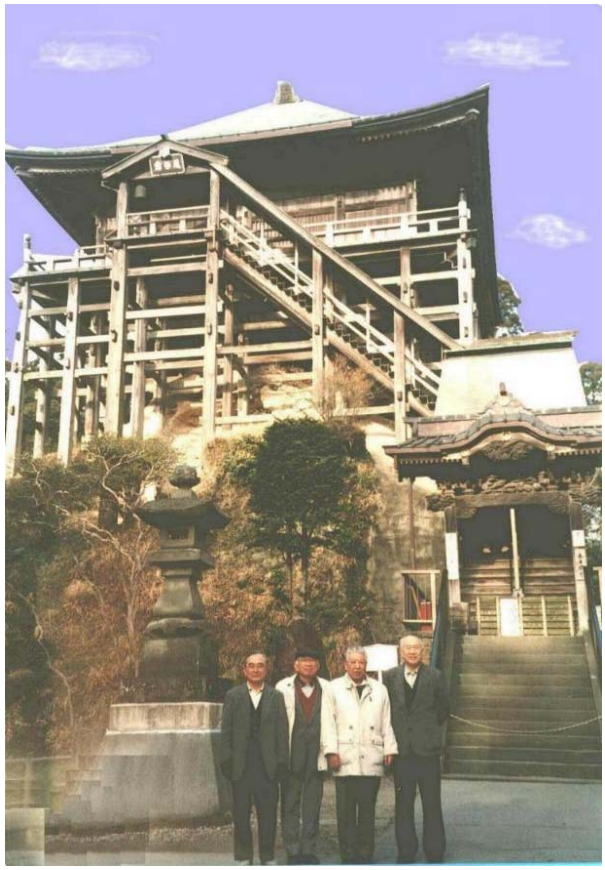
誌」によれば、この地に「アサバ」（密教でいう仏部、蓮華部、金剛部）という大木があったが、その枝葉が繁茂しすぎて日影をつくり、五穀が実らず大いに困っていた。時に夢告があり、この樹を伐って伽藍を造り、観音さまをまつるべしとの因縁を喜んで建てたのが、このお堂ともいう。また柱に大小のあるのは一本の大木だけから造ったためで、終わりの頃「木足らず」となり、これを木更津の地名に付会する人もある。』（『坂東 33 所観音巡礼』）（下図）

【第 31 番　大悲山　笠森寺　(笠森観音)】

天下の奇構

長元元年（一〇二八）後一条天皇の勅命で飛騨の工匠一条康頼と堀川友成が棟梁となって舞台造りの本堂を建てた。だが焼失。現在のものは近年の解体修理の際、安土桃山時代の年号の墨書銘が発見されたので、その頃の再建ではないかといわれている。岩丘の上に縦横に架け組まれた束柱の配列が生む構成実に、木匠のなみなみならぬ腕のさえが感じられる。

靴をぬぎ七十余段を登ると本堂の廻廊に出る。ここは高さ三十メートル。眺めはまことにすばらしい。このあたりは房総半島の内陸部丘陵地にあたるので、もともと人家は少ないが見渡す限り一軒だに目にとまらぬ大自然そのままの風光である。この本尊のいます主殿とそれをめぐる廻廊とからなる観音堂に身を置く参詣者は、雲上の浄土にある感を抱かずにはおかない。土地の古老の話では九十九里方面からこの本堂前の杉の梢に「龍灯」が見られるという。まさに神秘の世界でもある。（『坂東 33 所観音巡礼』）（右図）



【第 33 番　補陀洛山　那古寺　(那古観音)】

坂東三十三札所の「総納札所」である郡古寺は、房総半島南端の館山市、その市街から少しはずれた郡古山の中腹にある。(下図)

謝辞

5 インチフロッピーデスクにあったデータを 3.5 インチフロッピーディスクにコピー出来たのでこの巡拝記が陽の目を浴びる事が出来たのです。

これは、東芝セラミックス㈱・開発研究所の辛　平、申 鳳鳴、疋田　順の各氏のサポートに依るものです。

ここに、その事を特記して謝意を表します。

完